

考えよう

# 安心な暮らしを支える地域の公共交通



通勤・通学や通院、買物などで、私たちの日常生活に欠かせない公共交通。  
 しかし、身近な公共交通であるバスの利用者は減少し続け、バス路線のサービス水準の低下や存続が危ぶまれています。  
 今回は、平成26年度に実施したアンケート調査などの結果を踏まえ、私たちの生活に必要な公共交通の将来について、考えてみましょう。

問 市政策推進課 ☎ 31-1125



**バスが通らない！  
交通空白地帯**

公共交通サービスが十分に提供されていないエリア（自宅から500m以内にバス停が無い）は交通空白地帯と呼ばれています。

この交通空白地帯は、市の郊外部をはじめ、市立図書館・文化会館、病院などの施設のほか、寿地区や西原地区の人口集中エリアにおいても存在しており、公共交通でカバーできていないエリアが市内の広範囲に点在しています。

**急がれる対策**

**広域の交通ネットワーク**

近隣市町との繋がりが強い地区もあり、また、通院・通学など近隣市町からの流入も多い状況ですが、路線網としての繋がりが十分ではありません。市民の移動実態に沿ったネットワーク化が必要です。

**路線バスの利便性**

市内の路線バスは、東西方向の路線が多く運行されていますが、南北方向の路線の運行は少なく、また、1日あたりの運行本数が1本未満と、十分なサービスが提供されていない路線もあります。市民ニーズとしては、「運行の時間帯」「運行本数」といったサービス水準に対する関心が高い状況です。

**交通空白地帯からのアクセス**

広範囲に点在する交通空白地帯からの移動手段が確保されていないため、日常生活に必要な最低限の移動手段の確保が必要です。

よりよい公共交通を創り、守り、育てるため

## 公共交通について、市民の皆さんの声を、聞かせてください！

市では、利用者のニーズに合わせた機能的な交通ネットワークを構築するため、今年度に「地域公共交通網形成計画」を策定する予定です。

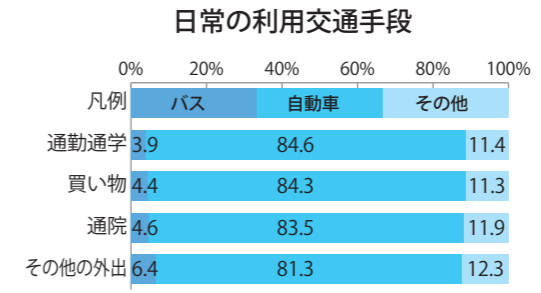
将来に向けての大切な計画を市や交通事業者だけで決定せずに、市民の皆さんの生の声を踏まえて検討していきたいと思えます。

ご意見・ご提案は、本庁、各総合支所窓口にて備え付けてある「市民の声直行便」ポスト、広報誌の「市民のひろば」のはがき、または市ホームページからお寄せください。



市街地、輝北、吾平の3地区で、青色のかわいいデザイン「くるりんバス」を運行しています。（1回大人100円）日常生活の移動手段にご利用ください。

**生活交通の現状**

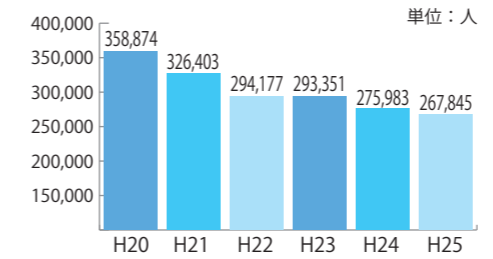


市民の8割以上の人が日常生活の移動手段を自家用車に依存しています。  
 一方で、近くに買物のできる場所や病院がない地域の人にとって、移動手段の確保は切実な問題となっています。

**安心できる暮らしに**

公共交通は、日常的に自家用車を使用する人にとっても外出先では必要な移動手段です。  
 また、将来自家用車を運転することが難しくなった時や、いざというときの代替の交通手段として、無くてはならない移動手段となります。  
 このようなことから、公共交通を維持することは、自家用車を持たない人だけの問題ではなく、市民の皆さんの共通の課題であり、公共交通は今後も欠かせない移動手段であると考えています。

### 廃止路線代替バス・コミュニティバスの利用者の推移



**減少する利用者、重い市の財政負担**

市内では、現在61系統の路線バスやコミュニティバスを運行していますが、利用者は年々減り続けています。その一方で、市民の約55%の人が「現在は必要としないが、将来クルマを手放した時に必要になる」と考えています。  
 また、利用者が減少するなか、事業者の努力だけでは運行を維持することは困難です。このようなことから、市では赤字路線に対する補助を行い、路線を維持するなど公共交通の確保・維持に努めています。

### 赤字路線バスへの市補助金

